

## 平成 28 年度気仙沼市防災フォーラム(第 17 回防災文化講演会)を開催しました (2017/01/27)

テーマ：防災教育、気仙沼市

1月27日(金)、気仙沼市中央公民館を会場として、気仙沼市と同教育委員会主催、当研究所と気仙沼ESD/RCE推進委員会の共催、気仙沼市立小・中学校安全担当主幹教諭の皆様の企画・運営で「平成28年度気仙沼市防災フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、当研究所が気仙沼市内で2ヶ月に1回程度開催している防災文化講演会の第17回としての位置づけもあります。昨年度も同フォーラムが開催されましたが、好評だったことを受けて今回が2回目の開催となります。今回は、「市民みんなで考える防災」をテーマに、市内の中高生をはじめ学校関係者や自主防災組織等地域住民約150人参加により開催されました。

講演会は、基調講演2件、パネルディスカッションの2部構成で行われました。基調講演では、当研究所の松本行真准教授(リーディング大学院)から「11月22日津波警報をめぐる住民組織の対応と課題—いわき市を事例に—」、佐藤翔輔助教(情報管理・社会連携部門)から「津波伝承は被害を減らすことができたのか?—東日本大震災を事例に—」という題目で話題提供がありました。パネルディスカッションでは、「防災を意識したまちづくり」をテーマに、松本行真准教授がコメンテーターを、佐藤翔輔助教がコーディネーターをつとめ、1)気仙沼市における防災・減災の取り組みに関する情報を共有し、2)それを受けて気仙沼の防災・減災で、不足していること、ぜひやらなければならないことについてのアイデアを出し合いました。パネリストには、現気仙沼市職員、自主防災組織関係者、小学校教諭のほか、高校生1名、中学生1名と、多世代の代表が登壇し、学校・地域・社会・文化と多岐にわたる議論が展開されました。登壇した中学生と高校生も大人に負けない発言をしていました。今回のパネルディスカッションでは、パネリスト以外からも2)のアイデアをその場で募集し、斬新・特徴的なアイデアを松本准教授が選び、みなさんの前で発表してもらいました。会場の40名程度は市内の中高生であり、事例発表、基調講演、パネルディスカッションとも熱心にメモをとっていました。



松本行真准教授



佐藤翔輔助教



パネルディスカッションの様子



会場の様子

文責：佐藤翔輔(情報管理・社会連携部門)